

## 産地情勢 (2022.8.5)

### 米国産とうもろこし

シルキングは 80%完了した。(平年 85%) 品質は優良が 61%で先週と変化なし。  
西部穀倉地帯の夜間気温が高温で、完熟への影響が懸念される。(8月3日)  
2/3のとうもろこしが5月に作付けが完了したが平年より2-3週間遅れたため、もっとも暑い時期に受粉期を迎えることになった。(7月27日)

### 米国産大豆

品質は優良が 60%と先週より 1%改善した。開花は 79%完了した。(平年 80%)  
西部穀倉地帯の高温乾燥が続けば、単収に悪影響が懸念される。(8月3日)

### ブラジル産とうもろこし

ブラジル国家食糧供給公社は 2021/22 年産の生産見通しを 115.6 百万トンに 0.4 百万トン増加した。要因はサフィナ・コソンの単収予想の改善による。(7月12日)  
ブラジル中部が 3 月下旬から乾季入り 5 月上旬まで継続する。4-5 月はサフィナ・コソンの受粉や結実に水分を要する時期であり、現在 30-40%のサフィナ・コソ地域が早魃の影響を受けているが、今後広がる可能性がある。(4月8日)

クロップ カレンダー		作付期	受粉期	収穫期	割合	特徴
フルシーズンの コーン (夏作)		8-9 月	11-12 月	2-5 月	22%	主に国内飼料需要向
サフィナ・コソ (冬作)		1-3 月上旬	4 月	6-8 月	76%	輸出の中心 大豆収穫後に作付

### ブラジル産大豆

ブラジル国家食糧供給公社は 2021/22 年産の生産見通しを 124 百万トンに 0.2 百万トン減少させた。(7月12日)  
南部の広範囲で乾燥が続いている。アグルーラル社は 2021/22 年産の生産見通しを 122.8 百万トンに引き下げた。アグリソース社は 119.5 百万トンと予想している。  
今後まだ数百万トンの下方修正があり得る。(3月8日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロップ カレンダー	9 月-12 月初	1 月	1 月-4 月

	め		
--	---	--	--

アルゼンチン産とうもろこし

収穫は 19% (平年 25%) まで進捗した。(4月20日)

先週は南部で連続して早霜の被害が起きたが、被害の程度は 1~2 週間経過しなければ判明しない。

ブエノスアイレス穀物取引所は、2021/22 産の生産見通しを 49 百万トン、ロザリオ穀物取引所は 47.5 百万トンと予想している。

(4月5日)

夏作は受粉期の天候がラニーニャ現象で高温乾燥になる可能性があるので多くの農家は夏作より冬作の作付けを増やす意向。冬作の割合は 55~60%。(12月21日)

肥料価格が高騰しており、投入量が減少すれば単収も下がる可能性がある。(11月16日)

備考	作付期	受粉期	収穫期
作付は 2 段階に分かれる。	9-11 月始め	12-1 月	3-4 月
	12-1 月	3-4 月	6-7 月

アルゼンチン産大豆

46%収穫 (平年 54%) 3 月以降複数回の早霜被害が発生し、単収減や収穫面積の減少が懸念される。(5月4日)

ブエノスアイレス穀物取引所は、2021/22 産の生産見通しを 42 百万トンで据え置いているが南部の霜害で今後の下方修正を示唆している。ロザリオ穀物取引所は 40.5 百万トンで据え置いている。(4月5日)

アルゼンチンの大豆には 33%の輸出関税がかかるため、作付面積は過去 15 年で最低となる見通し。(11月1日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクropp カレンダー	10 月-1 月中旬	2 月	3-6 月

以上、Soybean and Corn Advisor, Inc. Corn+soybean digest より

米国農務省生産量予測 (7月12日)

とうもろこし

(百万トン)

	2020/21	2021/22	2022/23
米国 (9-8 月)	358.5	383.9	368.4
ブラジル (3-2 月)	87.0	116.0	126.0
アルゼンチン (〃)	52.0	53.0	55.0

米国は 2021/22 年度の飼料その他需要が減少し、期末在庫が 25 百万ブッシェル増加した。

2022/23 年度の生産量は、作付面積の増加で 45 百万ブッシェル増加。単収は 21/22 と同じ史上最高の 177bu/acre で据え置き、期末在庫率は 10.09%に増加。

大豆

(百万トン)

	2020/21	2021/22	2022/23
米国 (9-8 月)	114.8	120.7	122.6
ブラジル (2-1 月)	139.5	126.0	149.0
アルゼンチン (4-3 月)	46.2	44.0	51.0

米国は 2021/22 年度は搾油需要の減少により期末在庫率が 4.79%に増加した。2022/23 年度は生産量は、作付面積の減少から 135 百万ブッシェル減少。需要は搾油が 10 百万ブッシェル、輸出が 65 百万ブッシェル減少した。

単収は 51.5bu/acre、生産量は史上最高の 45.05 億 bu。

期末在庫率は 5.11%に悪化。

\* 北半球の穀物年度は 21/22 の場合、2021 年の月から始まるが南米は 2022 年の月から始まる。(USDA)